

## またまたNHK会長

写真は中日新聞 2月19日である。これをテーマに取りあげるのも気が進まないが、マスコミの現状を伝える報道として見過ごせない。

靱井 NHK 会長が 18 日、民主党の会合に出席して「政府意向重視発言などで民主議員と応酬」とある。靱井会長は 5 日の定例記者会見で、戦後 70 年の慰安婦関連番組について「政治のスタンスが見えないので、放送は慎重に考える」と発言。これらの発言などをめぐる会合での議員とのやりとりだ。「応酬」自体は「くだらん」かもしれないが、就任以降の一連の発言をたどっていくと、これで終わりとはいかない。

5 日の靱井発言について、碓井広義・上智大教授（メディア論）は次のようにコメントしている。「靱井会長は、就任会見での『政府が右と言うことを左と言うわけにはいかない』という発言から何も変わっていない印象だ。そもそもジャーナリズムというのは、自分たちで課題やテーマを探して報じるもの。

なかでも公共放送は国民の放送局で、国営放送ではない。権力者から見解を聞かされて、一定の方向に伝えるものではない。NHK 内部に慰安婦問題に取り組みたい人がいても、企画書が書けなくなる。NHK のジャーナリズム機能を損なう発言だ。」（朝日新聞 2月6日）

最近の NHK ニュースなどを見ていると、どうも政府寄りの姿勢、「政府広報」的な感じが目立つようで、心配になってくる。

同紙 2月7日社説でも取りあげられている。「公共放送が顔を向けるべきは政府ではない。視聴者だ。NHK がよって立つこの基盤が、靱井会長には、まだ分からないのだろうか。この 1 年の間、繰り返し指摘されてきたことだ。もはや失言や理解不足というレベルではない。--- 政府に寄り添うような考えを公言する会長のもとで、現場が息苦しくなったり、番組内容が過度に抑制されたりしていないか、心配だ。こういう懸念が生まれること自体が、NHK の価値を大きく損なっている。この事態を招いた靱井氏には重い責任がある。会長としての資質をめぐる疑問は深い。」

こんな会長には、早くやめてもらいたい。NHK がますます悪くなる。

(2015 年 2月 21 日)

「よめることではない」と追  
及、靱井氏は「皆無ではない  
が、ある」と反論し、なお発言  
撤回を求める階氏に「じゃあ  
れら」といって「  
「よ」をどうもい。そんな  
なの言葉の「アヤだ」と述べた。  
会議後には、靱井氏が民主党側  
の質問を「くだらん」とつや  
いたとして、階氏が抗議し、罵  
声を交わす一幕もあった。  
NHKの枝野幸男幹事は記  
者会見で「こうした姿勢で公共  
放送機関のトップだとは、到底  
理解されない。NHKを政府の  
広報機関と勘違いをしているの  
ではないか」と靱井氏を批判。  
今後、国会審議で追及する考え  
を示した。  
NHKの板野裕爾放送総局長  
も「会長は慎重に検討し  
る」と説明した。

「十八日の記者会見  
は長就任後の局内は政  
村度するよになつ  
れる」といって「  
員といえどもサリ  
司がいたりとか、  
る。村度は企業や組織  
的に存在している。N  
く動いているとは思わ  
述べた。

NHKが従軍慰安婦  
組で取り上げるかどう  
ては「取り扱うテーマを  
理解することはない。何ぞ  
り上げるかは編集権の間  
説明、靱井氏の発言につ  
「会長は慎重に検討し  
る」と発言したと理解  
る」と説明した。

NHKの靱井勝人会長「写真  
は十八日、民主党の会合に出  
席し、従軍慰安婦問題と放送を  
めぐる自らの発言などをめぐ  
り、民主議員と議論した。靱  
井氏は発言について「言葉が不  
十分で誤解を招いた。政府の方  
針で判断が左右されることはな  
い」と説明したが発言は撤回せ  
ず、民主党側は激しく反発した。  
靱井氏は五日の定例会見で、  
戦後七十年の慰安婦関連の番組  
について「政府のスタンスが見  
えないので、放送は慎重に考え  
る」と発言していた。  
靱井氏が会長就任時に理事全  
員の辞表を集めたことを「一般  
社会ではよくある」と弁明した  
ことに関し、階猛衆院議員は

NHK 会長  
靱井

くだらん...罵声